

2019・2020 年度 課外活動奨励賞受賞者一覧

この賞は、様々な課外活動の分野で顕著な活躍をした学生（個人および団体）を、大学と後援会が共同して表彰することにより、広く学生全体の課外活動を奨励することを目的としています。

■ 2019 年度 ■

【 個 人 】

| 氏名 | 所属 | 表彰内容・理由 ※2019 年度中の内容です |
|--------|------------------------|---|
| 金子 果 | 英語文化コミュニケーション学科 4 年 | <p>英語文化コミュニケーション学科主催の TOEIC 試験で 760 点を獲得しました。この高得点を獲得した理由は、入学してから高い目標を持ち、継続的に英語学習に励んだからです。金子さんの場合は留学や海外研修は一切なく、自らの努力でこの素晴らしい結果を出しました。</p> <p>金子さんは、英語文化コミュニケーション学科の教職課程を履修し、教職を目指しています。そのため、自分の英語学習だけではなく、学内外で教育やボランティア活動に参加し、大学や社会に貢献しました。2019 年の夏、金子さんは自分の英語力を生かし、カナダオリンピック代表ボートチームのテストキャンプでの通訳ボランティア活動をしました。また Kids' Book Project の副リーダーとして、Kids' サマースクール で学生主体の講座を開講し、さがまちカレッジ主催の英語講座で子どもの英語学習を支援しました。</p> |
| 神戸 悠 | 英語文化コミュニケーション学科 4 年 | <p>カリフォルニア州立大学チコ校での半年間の留学から戻った後、教室の内外で総合的に英語能力を向上させるよう努めてきました。3 年次の夏休みに 1 か月間高級外資系ホテル「アンダーズ東京」にて英語を用いたインターンシップ（就業体験）を行い、インターンシップ先より高い評価を頂きました。また、英語とホスピタリティ（接遇）の資格試験でさらに点数を向上させるために一生懸命勉強してきました。2019 年、神戸さんはサービス接遇検定で 1 級を授与され、2019 年 12 月に TOEIC IP テストで 830 点を獲得しました。</p> |
| 酒井 萌衣 | 英語文化コミュニケーション学科 4 年 | <p>英語文化コミュニケーション学科主催の TOEIC 試験で 735 点を獲得しました。留学や海外語学研修の経験は全くないですが、空港で働くグランドスタッフの夢を追いかけ、TOEIC の過去問題集に徹底的に取り組み自分の努力でこの素晴らしい成績を達成しました。</p> <p>酒井さんは、英語の学習以外、自分の専門（英語）を活かした学内外のイベントやボランティア活動に参加し、大学や社会に貢献しました。以下は大学 3 年生の時の活動です。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ブラジルのオリンピック水泳選手団の通訳ボランティア活動（2019 年 7 月） (2) 車いすのボランティア活動（2019 年 4 月～） (3) Kids' Book Project のメンバーとしてさがまちカレッジ主催の英語講座で子供の英語学習を支援する活動（2019 年 12 月） (4) オープンキャンパス学科企画の学生スタッフ |
| 井上 千帆里 | 健康栄養学科 4 年 | <p>オリエンテーリング部の井上さんは、以下の通り全国大会で 2 位（42 名中）という大変優秀な成績を修めました。</p> <p>大会名：2018 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会</p> |

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>開催日：2019 年 3 月 16 日（土）</p> <p>会 場：望郷の森（岐阜県恵那市中野方町）</p> <p>部 門：ミドル・ディスタンス競技部門 WUB</p> <p>タイム：井上千帆里 20 分 23 秒 相模女子大学（1 位と 2 秒差）</p> <p>上記の成績の他、井上さんは日々の部活動で熱心に練習に励み、部員に的確なアドバイスをして信頼されるなど、リーダーシップを発揮している。</p> |
|--|--|--|

【 団 体 】

| 団体名（所属学科） | 表彰内容・理由 ※2019 年度中の内容です |
|---|---|
| 地方創生・地域活性化活動チーム （英語文化コミュニケーション学科） | <p>英語文化コミュニケーション学科学生の有志により 2019 年 2 月～12 月に北陸地方を中心に地域貢献活動を行ってきた。チームメンバー 6 名が 35 日間活動を行った。活動の成果は以下となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全国エコツーリズム学生シンポジウムに応募し、テーマ『世界遺産富山県五箇山における伝統農法「なぎ畑」と伝統野菜「五箇山カブラ」をエコツーリズムを通して持続可能な地域資源に』が全国の大学からの応募より口頭発表枠 8 大学に選出され、立教大学にて口頭発表を行った。本シンポジウムは、環境省、文部科学省、農林水産省、観光庁が後援となる年 1 回の会合となる。 2. 神奈川産学チャレンジプログラムに参加し相鉄ホールディングス株式会社への企画提案『宿泊特化型ホテル「相鉄フレッサイン」に求められる将来の客室像について』というテーマで優秀賞を受賞した。受賞内容は、若い女性も泊まりたくなるビジネスホテルの部屋のアイデア企画となる。 <p>本チームメンバーは 11 か月、35 日間の地域貢献活動及び地域での調査・フィールドワークを行い、政府の推進する地方創生、地域活性化の提案を学術的かつ実践的な内容に高めているといえる。</p> |
| Kids' Book Project （日本語日本文学科、 英語文化コミュニケーション学科、 メディア情報学科） | <p>Kids' Book Project は、こどもたちの外国語学習支援を目的とし、絵本を通して学習の楽しさを伝えています。このプロジェクトには、学芸学部日本語日本文学科、英語文化コミュニケーション学科、メディア情報学科の学生が総勢 47 人参加し、各学科の専門性を活かして、デジタル絵本の制作・配信、学内外でのワークショップやイベント企画・開催に多数取り組んできました。</p> <p>これまで制作したデジタル絵本は、英語だけでなく、日本語、韓国語、スペイン語、中国語、マレー語のデジタル絵本を制作しました。参加した学生は、プロジェクトの活動を通して、こどもが読みやすく、わかりやすいデジタル絵本の作り方や、こどもが遊びながら外国語に触れる環境作りを学ぶことができました。また、イベントの実施では、学生が講師となり、こども向けの教材制作の難しさや、こどもとのコミュニケーションの大切さを学ぶ機会を得ることができました。</p> <p>さらに、2019 年度では、オンラインストア（Apple Books）で配信中のデジタル絵本のダウンロード総数が 7,195 件に到達しました（2020 年 1 月 9 日現在、資料 3 表 1）。特に、欧州や米国を中心に、高く評価され、国内のダウンロード件数を上回りました。このことは、日本だけでなく国際的に評価されたものと言えます。</p> |
| 産チャレ 2019 チーム （英語文化コミュニケーション学科） | <p>本学生は神奈川県経済同友会主催産学チャレンジプログラムに挑戦し、本学 10 チームが参加し優秀賞を受賞した中の 1 チームである。</p> |

| | |
|---|---|
| | <p>メンバーは、6月から12月までの長期プログラムに夏休みを返上し、課題に積極的に取り組む姿勢が当結果につながった。また、さがみ発想コンテストにも参加し、うち1名は入賞している。コンテスト以外に、実践面では企業や地域団体の課題解決に取り組み、中日本エクス株式会社および相模原市上大島観光協会から高い評価を得ている。大学で開催された「おりひめ祭」にも積極的に参加し、中心的な役割をになった。</p> |
| <p>ボランティアグループ どれみんみん♪ (子ども教育学科)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・相模原南児童ホーム（乳児院・児童養護施設の合築施設）での、児童および乳児を対象としたレクリエーション支援を行っている。月に2回、第2土曜日曜を基本に、乳児班・児童班のグループで訪問し、活動終了後は施設職員を交えたケース検討会も実施している。児童が施設を退所する際には、職員を通じて児童に手紙を送っているほか、児童を相生祭に招待するなど、メンバーは子どもたちにとって大きな存在となっている。また、同施設で実施している、地域児童を対象とする無料学習支援事業にも多くのメンバーが参加するなど、活動の枠を越えて各学生がボランティア精神を発揮している。 ・相模原市のダウン症児童の自助グループ「あすなろ会」の支援に携わっている。ピクニックやクリスマス会などの活動を支援する中で、行事の企画運営や、ダウン症児への関わり方について実践的に学ぶほか、保護者のレスパイト（一時的な休息）にも貢献している。 ・東京都昭島市にある知的障害者通所作業「こまくさ工房」との交流を行っている。同工房を訪問し、作業所を利用する障害者とともに作業に取り組むほか、相生祭では、同工房の委託を受け、製作品を販売するなどしている。 |

■ 2020 年度 ■

【 個 人 】

| 氏名 | 所属 | 表彰内容・理由 |
|--------|----------------|--|
| 三角 香奈 | 日本語日本文学科 4年 | 日本語および日本語を学ぶ学習者に対して関心を抱き、目標をもって意欲的に学び、「日本語教育能力検定試験」（令和元年度）に見事合格した。この試験は合格率が約20～30％程度の難易度が高い試験であり、受験者の半数以上は現役の日本語教員、学校教員等で、大学生・短大生の受験者数が極めて少ない中で合格したことは大きな快挙と言える。 |
| 早乙女 佳音 | 人間心理学科 4年 | 1年次にノートテイク講習会を受講し、2年次から4年次まで学生ノートテイカーとして活動を継続した。ノートテイクをする際には、事前に担当する授業の予習を行い、授業内容の理解に努め、15回の授業に対して熱心に取り組んだ。また、ノートテイク講習会に先輩学生として参加し、学生ノートテイカーの普及活動にも貢献した。 |

【 団 体 】

| 団体名（所属学科） | 表彰内容・理由 |
|------------------------------------|--|
| コンテスト2020 チーム (英語文化コミュニケーション学科) | <p>コロナ禍の中、一般財団法人発明学会主催「第24回 身近なヒント発明展」の複数の発明案にエントリーし、『常に clean な Push out ブラシ』で奨励賞、『2個持ちなんてさせない！3変化エコバック』と『小物や衣類を埃から守る 3SBOX(Something、Soft、Snazzy)』で努力賞を受賞した。町田市主催「まちだ未来ビジネスコンテスト2020」では、ファイナルに進み社会人と一緒に競い、大賞とオーディエンス賞を受賞</p> |

| | |
|---|--|
| | <p>した。他にもソニー株式会社主催 「U24 CO-CHALLENGE 2021」、相模女子大学主催「さがみ発想コンテスト」等、学生同士お互いに切磋琢磨しながら様々なコンテストにチャレンジした。</p> |
| <p>コロナ対応オンライン模擬授業学生ヘルプチーム (英語文化コミュニケーション学科)</p> | <p>オンライン授業のスタートとその準備を進めるために、自ら協力を申し出て、学科各担当教員と協力し、『コロナ対応オンライン模擬授業』への学生参加の呼びかけを行い、結果的に英語コミュニケーション学科在校生 356 名の招集と当日のスムーズな運営につながった。コロナ禍でも出来る事を見つける強い気持ちを具体化し、在学生のために真摯に取り組む姿勢は、他の学生の見本となった。</p> |
| <p>サンタプロジェクト・さがみはら (日本語日本文学科・人間心理学科・食物栄養学科)</p> | <p>サンタプロジェクトは、クリスマスを病院や施設で過ごす子ども達へ本とメッセージを届ける活動で、2012 年から書店と地域に暮らす市民の方々の協力を得て行っている。2020 年度はコロナ禍により規模を縮小したが、このような状況でも多くの学部・学科の学生が本プロジェクトに賛同し、77 冊の本を相模原南児童ホームへ届けた。</p> |